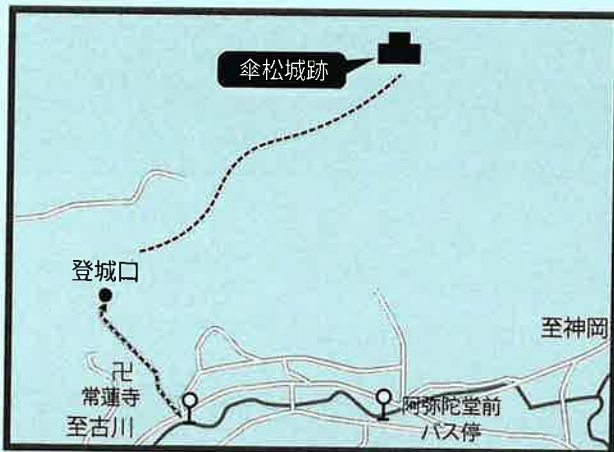
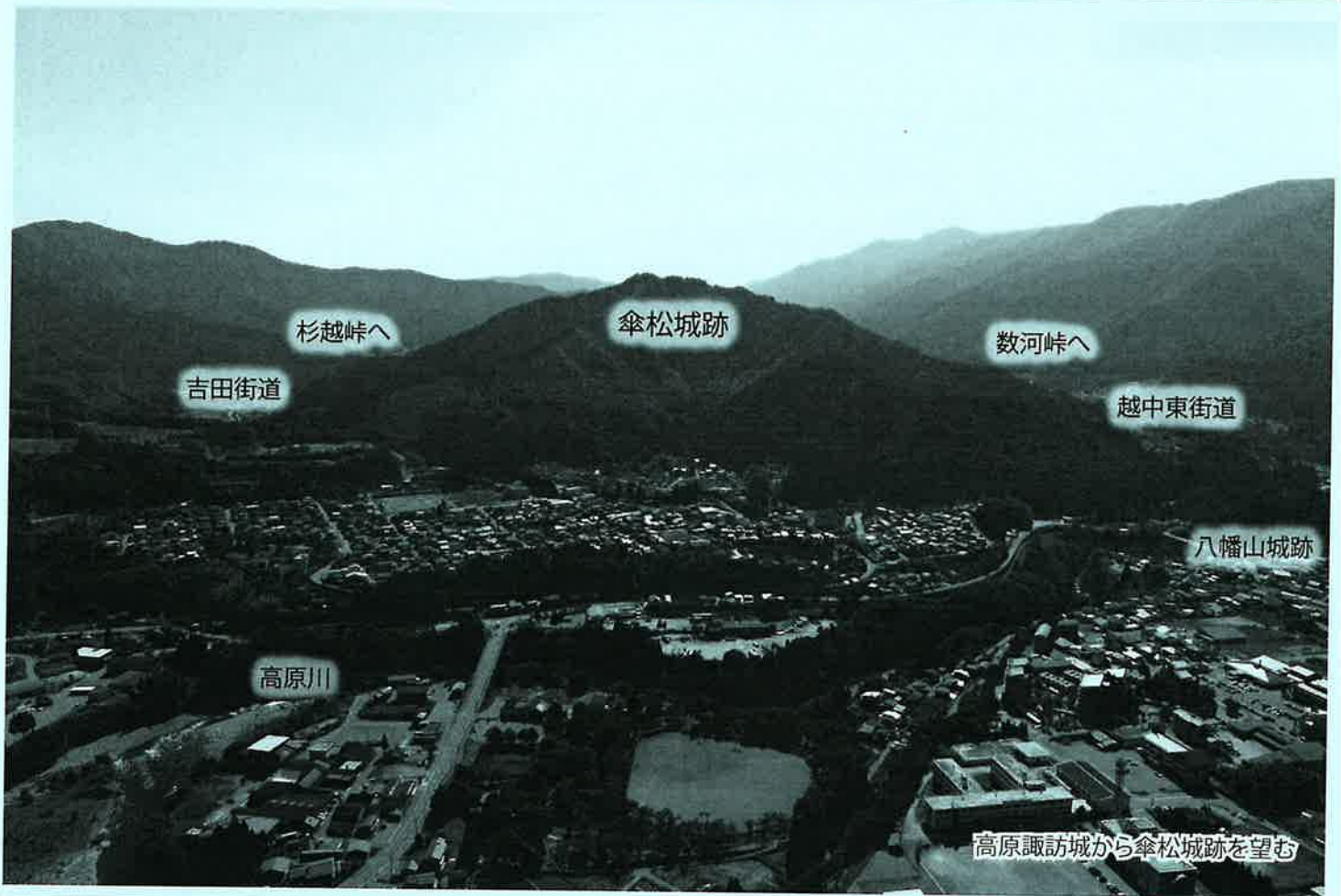


傘松城跡 現地見学会資料



傘松城跡における試掘確認調査の概要

今年の夏に、江馬氏の山城で初めての発掘を行いました。主郭直下の南側の曲輪で新たな横堀を確認しました。すでに見つかっている北側、西側と合わせて、3方向に横堀がめぐっており、主郭の防御がいかに堅牢であったかが分かりました。

西尾根の巨大な堀切では1mを越えても堀の底が見えませんでした。そのため、地表面観察では堀切の深さは8mほどを測っていましたが、当時は10m近くの堀切であったと想定できました。

巨大な堀切、急峻な切岸は本城の高原諏訪城に匹敵し、ダイナミックな江馬氏の城づくりを見てとることができます。また、これらの遺構は古川方面に集中しており、当時、姉小路(三木)氏と対立していたことを物語るものと言えます。

調査の概要

所在地 飛騨市神岡町吉田・釜崎・寺林
調査期間 令和2年8月5日～9月8日

《語句解説》

主郭・曲輪(しゅかく・くるわ)……山を削平して作られた平坦地。中心的な大きな曲輪は「主郭」と呼ばれる。

横堀(よこぼり)……曲輪を囲い込む横方向の線的な空堀。

堀切(ほりきり)……尾根筋を掘り切って切断した空堀(水のない堀)。尾根筋からの敵の侵入に備えた防御施設。

